

評価項目	評価員からの意見	今後の対応
1 学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、改善活動を継続しており、評価している。 ・学校組織としての目的、目標が教職員に理解、共有され、全員で課題解決に取り組んでいる。組織のまとまりは、教育の方向性を担保するものであり、教育の質向上につながることを期待している。 ・学校評価におけるデータ分析により課題を見出し、改善に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校としての組織目標については、毎年度当初に各教職員間で共有し、目標意識を明確化し、組織として課題解決に取り組んでいるところである。引き続き、風通しのよい組織運営を図り、組織一丸となり課題解決に取り組んでいきたい。 ・今後も継続的に評価しながら、改善・向上に取り組んでいく。
2 学科運営	<ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習については、受入先となる病院側と学校との連携強化を図りながら、よりよい実習環境を提供できるよう努めていきたい。 ・教員、学生の評価を丁寧に分析しており、よりよい改善につなげている。 ・コロナ感染拡大防止の影響により、特に実習においては今までのように行うことができず対応に苦慮されたと思われる。そのような状況の中、オンライン授業の活用などの工夫により学習機会の確保が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設と連携の強化を図り、より良い実習環境の調整に努めていく。 ・臨地実習については本校としても状況に応じて実習方法を柔軟に変更し、学生にとって学びの多い実習機会が確保できるよう、施設と連携を図っていく。
3 入学・卒業対策	<ul style="list-style-type: none"> ・県立の学校であることの強みはもとより、県内に3校あることのメリット、とりわけ多治見にあることの特徴を明確に示し、卒業後の具体的なメリットにも踏み込んでPRできるとよい。 ・採用面接時に本校を選択理由を確認すると、「地元の人の役に立ちたい」との理由を聞くことがある。卒業後の就職先と合わせて、卒業生が地元でどのような活躍をしているか等の情報を発信してはどうか。 ・入学生の確保、卒業後の支援はどの学校においても課題であるが、社会の状況に合わせて、様々な方法、対策を工夫している。 ・コロナ禍において直接的な交流を行うことが難しい中、リモートの活用など工夫しながら実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東濃圏域で唯一の3年課程専門学校である本校は、立地面では、JR中央線沿線でアクセスがよいことに加え、将来的なキャリア支援においても、充実した教育課程の実践により高い国家試験合格者を誇っている。また卒業生の多くが地元の基幹病院で活躍しており、その実績を前面にアピールした効果的な情報発信ができるよう努力していく。 ・ICTの活用については、今後県立3学校を繋ぎ、質の高い教育が受けられるような取り組みも検討していく。
4 学生生活への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・実習中の睡眠時間が少ない学生が多いことが気になる。当院においても、就職後も遅くまで学習し、眠気を抱えながら勤務につく新人も多いことから、睡眠時間の確保と食事について指導しているところである。学生に対し、生活リズムを整えることの重要性を指導してほしい。 ・実態調査の結果が学生支援に活用されている。調査結果によれば、学生からは「学習面に強いストレスを感じる」や、「ハラスメントがあった」との回答があったため、今後、より丁寧な聴き取り調査を行い、課題改善を図られたい。 ・学生の個別性に合わせた対応は難しいと察する。現に行われる支援を確実に継続実施することで、さらに良い支援につながると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の負担感を減らすように、課題の提示方法、実習記録用紙等を検討するとともに、引き続き生活のリズムを整えることの大切さを指導していきたい。 ・学生がハラスメントと感知することがあった場合は、速やかに丁寧な聴き取りを行い、問題点改善に取り組みたい。またハラスメントと感知した場合に、訴えやすい環境づくりに務めていきたい。

5 教職員の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用に期待している。 ・教員間の授業参観がとても印象的であった。具体的な教育方法のヒントを得たり、自身の授業とは異なる学生の反応を実感できる良い機会を得られたと思う。 ・授業参観の実施により教員各々が刺激を受け、積極的な授業検討につながっている。また、相互評価により、新たな課題の発見、授業改善がなされることが期待できる。今後、授業研究委員会の設置により、研究的視点が加わり、教育の質が向上することに期待している。 ・教員のキャリア・スキルアップに対して、目標管理や授業参観などの実施を行うなど、前向きな取組みがなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状に満足することなく、全教員の授業参観の実施や、小グループによる授業研究の取り組みなど、今後も教育の質の向上に務めていきたい。 ・ICTに関する物理的環境は整備されたが、それを活用する教員のスキルに差が生じている。教員全体が教育方法等にICTの活用ができるように研修の機会を設けていきたい。
6 管理運営 ・財政	<ul style="list-style-type: none"> ・防災意識として、火災や地震のほかに大雨による被害想定、例えば交通の遮断等についての検討会や紙上シュミレーションなどの実施も検討してはどうか。 ・新型コロナウイルス感染症への対策等、マニュアルを作成して対応されている。教員の防災マニュアルが未整備であるので、危機管理体制向上のため早急に作成、実行できるものとされるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療の担い手として災害時を想定したシュミレーションは必要と認識している。令和4年度から導入する新カリキュラムには、災害医療に関わる知識習得を目的として、地域の危機管理体制に関する講義を盛り込む予定としており、今年度は試行期間として、県防災担当職員を招いた講義を秋に実施する方向で調整している。 ・本校の防災マニュアルについては、想定される被害や他機関の策定状況を参考にしつつ、早急に整備するよう取り組んでいく。
7 施設設備	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の意見を取り入れた地道な改善が良い評価につながっていると思う。 ・経営や管理運営・財政とも絡むと思うが、ICT化の充実が始まったばかりで今後も促進・更新を続けていく必要があると感じる。 ・ICT環境はある程度整備されたので、積極的に活用されるとよい。備品等の老朽化については、今後の学習内容、方法に合わせ計画的に整備されたい。 ・校舎は古いため、仕方ないところもある。自己評価にもあったが、図書の実験や学内の演習用備品など、学生にとって学びを得やすい環境の改善を期待している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムの準備と共に医療現場をイメージしたより効果的な学習ができるよう、実習室の整備や演習備品の更新等学生が学びやすい環境を整えていきたい。 ・図書室がよりよい学習環境となるよう、毎年計画的に新刊購入の予算化をしていく。また学生の意見を取り入れながら、活用しやすい図書室を目指していきたい。 ・パソコンやタブレットの収納庫は視聴覚室に整備されたが、今後、充電保管庫設置の検討もしていく。また、取扱規約が十分検討できていない。早急に策定していく必要がある。
8 社会貢献 地域活動	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍だからこそ、健康管理や手洗いについてのポイントなどの情報発信も社会貢献に含まれるものと思う。 ・ホームページを活用した積極的な学校のPRにより、学生確保につながるとよい。 ・現状では、地域活動などは困難であるので評価は難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の学校として多治見市を始めとした東濃地域に存在感を感じられるようPRのみの活用でなく、ご意見を参考に幅広い内容を取り上げ配信できるよう検討していきたい。 ・見やすく、興味が持てるホームページを目指し、学校行事ごとに写真等を更新するなど、更なる改善に努めていきたい。 ・地域への貢献として長期休暇前の大掃除などのタイミングを見計らい、地域のごみ拾いなども計画していく。